

科学研究
担当役員

クリス・シュレカット博士に聞く



必要とするデータの洗い出しに関する活動だ。合金はさまざまな元素の混合物ではな
や、今後想定される規制の関する活動だ。合金という独自の物質はな
連データを戦略的に策定する。合金という独自の物質はな
活動も行っている。既存データにギャップがある。このため、われわれは
せがなければならぬ。そのデータを収集し、合金中の金属放出率で毒性を異
ば人体に害を及ぼす可能性がある。最近では産業判断すべきだという考えの
をもたらし、技術総合研究所と水質ガイドライン、新たにバイオリ
わけては、技術総合研究所と水質ガイドライン、新たにバイオリ
いことだ。合金用途で発表するとともに、規制当局に情報提供している」
ニッケルは得たデータは刊行物や会合などで発表するとともに、規制
の合金用途で発表するとともに、規制当局に情報提供している」
や電池用途 当局に情報提供している」

「電池用途拡大などニッケル業界の変化で活動に影響は。」

「電池需要の拡大や電池リサイクルで言えば、基本的に増えているインドネシアなどは温室効果ガスやカーボンフットプリント(CFP)などのESGが主要テーマだと認識している。当協会では世界ニッケル暴露に対して特異的な感受性を示さないことがわ

健康・環境への影響研究

規制当局に関連情報提供

「1980年にカナダのニッケル企業救済の共同出資で発足した。欧米の関係当局の要請で業者の疫学調査から活動を始め、その後は人の健康と環境の両面での影響を調査するようになった。2005年にはニッケル開発協会と統合して発足したニッケル協会の独立した科学部門となった。ナイペラは共同事業のため、企業には経営資源の効率化、質の高いデータにアクセスし、規制に関して同じ立場で活動できるという利点がある。現在は米国ノースカロライナ州ダーラムに拠点があ

る。7人の専門家と1人の事務員が在籍し、専門家のうち4人が人体、3人が環境の毒物学者だ」

「最近特に注力しているのは低レベルの毒性評価を促し、規制当局がニッケルのような金属の分類に関する定期的なレビューを行っており、発がん性や生殖毒性と関連する活動している。また、当協会では発がん性の分類に属する化合物であっても危険性と暴露レベル部門と連携し、規制当局がスガ代表例だが、合金の分類」

「活動内容は、ニッケルは規制対象物質ではあるが、重要な例えば発がん性の分類に属する化合物であっても危険性と暴露

「健康の領域では、有害性物に対するニッケルの毒性は表されている」

「職業性暴露限界(OEL)とCFPが主要テーマだったが、健康と環境に関する情報も提供してきた。新たな参入者にも基本的な知識を理解し

ニッケル協会「NiPERA」の活動

